

Title	体育授業における個人種目と集団種目の違いと授業前後におけるモチベーションの変化について
Sub Title	Relationship between difference of sport type and change of motivation in college physical education
Author	近藤, 明彦(Kondo, Akihiko) 加藤, 大仁(Kato, Hirohito) 佐々木, 玲子(Sasaki, Reiko) 永田, 直也(Nagata, Naoya) 山内, 賢(Yamauchi, Ken)
Publisher	慶應義塾大学体育研究所
Publication year	2016
Jtitle	体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.55, No.1 (2016. 1) ,p.25- 27
JaLC DOI	
Abstract	In this study, we categorized classes as individual-sport or team-sport and examined the influences of the different sport types on students' motivation. The participants were 140 students (18-25 years old) enrolled in classes for individual-sport (aerobics and fitness training) and team-sport (basketball and handball). We used a motivation scale for exercise adherence based on self-determination theory. It was administered on the first and final day of classes. Data were analyzed with a two-way ANOVA. Intrinsic motivation and identified regulation scores for individual-sport and team-sport on the final day of classes were higher than on the first day and there was an interaction between sport types and class day. Data suggest that individual-sport participation changed the purpose of their activity.
Notes	研究資料
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00550001-0025

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

体育授業における個人種目と集団種目の違いと 授業前後におけるモチベーションの変化について

近藤 明彦* 加藤 大仁* 佐々木玲子*
永田 直也** 山内 賢***

Relationship between difference of sport type and change of motivation in college physical education

Akihiko Kondo¹⁾, Hirohito Kato¹⁾, Reiko Sasaki¹⁾,
Naoya Nagata²⁾, Ken Yamauchi³⁾,

In this study, we categorized classes as individual-sport or team-sport and examined the influences of the different sport types on students' motivation. The participants were 140 students (18-25 years old) enrolled in classes for individual-sport (aerobics and fitness training) and team-sport (basketball and handball). We used a motivation scale for exercise adherence based on self-determination theory. It was administered on the first and final day of classes. Data were analyzed with a two-way ANOVA. Intrinsic motivation and identified regulation scores for individual-sport and team-sport on the final day of classes were higher than on the first day and there was an interaction between sport types and class day. Data suggest that individual-sport participation changed the purpose of their activity.

キーワード：動機づけ，教養体育，種目による違い

Key words : motivation, college physical education, difference of sport type

はじめに

スポーツ心理学において，運動実施を継続的に行うことが出来るか否かは，内発的に動機づけられた活動か否かによって決まるということが定説である。近年では健康行動としての運動実施に注目してリスク知覚，運動の結果予期や自己効力感などの心理的要因が運動継続にどのようなつながるかといった行動変容理論研究が行われている。また心理的要因に影響を与える可能性のある施設や場所をはじめとした運動実施環境が外的要因として

運動継続に影響を与えることも注目されている。

“運動が楽しい”，“運動がしたい”という運動実施そのものを目的として運動実施者が内発的動機づけに基づいて自己決定し運動にコミットすることが，運動の継続的実施の鍵となる。さらには運動実施者が熟達目標を持つことが内発的動機づけを高めるという Gutierrez (2010) の報告や，集団においても熟達志向的雰囲気形成されることが内発的動機づけを高めるという Papaioannou (1998) の報告がある。

体育授業のような運動実施環境の場合，授業環境が持

* 慶應義塾大学体育研究所教授

** 慶應義塾大学体育研究所助教

*** 慶應義塾大学体育研究所准教授

1) Professor, Institute of Physical Education, Keio University

2) Research Associate, Institute of Physical Education, Keio University

3) Associate Professor, Institute of Physical Education, Keio University

つ雰囲気である「動機づけ雰囲気」に対して教員が果たす役割は大きな物と考えられることから、筆者等はこの点に着目し松本（2003）らの作成した“動機づけ尺度”ならびに、磯貝（2008）らの“動機づけ雰囲気尺度”を用いて大学授業における動機づけ雰囲気が履修者の動機づけに及ぼす影響を検討してきた（永田，2014）。

上述の検討の結果，運動種目の違いについても検討する必要があると判断した。本報告では，個人種目と集団種目の違いが動機づけにどのように関連するかについて検討した結果を報告する。

方 法

調査対象

調査対象は，体育実技を履修した学生であり，欠損データが無いものとした。履修科目は個人種目履修者70名（フィットネストレーニング：31名，エアロビクス：39名）と集団種目履修者70名（ハンドボール：16名，バスケットボール：54名）の計140名（18-25歳）であった。対象者には，調査に先立ち，研究の目的，参加の任意性と撤回の自由，個人情報の保護等についての説明を行い書面にて調査参加同意を得た。

質問紙と分析手法

本調査では，自己決定理論に基づく動機づけ尺度（松本ほか，2003）を用いた。対象者は，第1回目授業日と最終授業日に調査用紙に回答することとした。分析にはIBM SPSS22.0を用い運動種目の違い，ならびに対象者の第1回目授業日と最終回授業日の動機づけ尺度の得点について，二要因分散分析ならびにボンフォローニ法による多重比較検定を用いて検討した。

結 果

得られた結果は表1に示したとおりである。運動種目タイプの違いと授業前後の時系列について交互作用が認められた。（内発的調整： $F(1,138) = 8.01, p < .01, \eta^2 = .06$ ；同一視的調整： $F(1,138) = 6.32, p < .05, \eta^2 = .04$ ）また，第1日目の内発的調整および同一視的調整においては集団種目に対して個人種目の値が低いという結果であった（ $p < .05$ ）。

考 察

個人種目の参加学生は内発的調整ならびに同一視的調整についてその得点が高くなるという結果を得た。

	個人種目		集団種目					
	第一日	最終日	第一日	最終日				
内発的調整	16.16	2.75	16.76	2.43	18.36	1.74	17.93	2.19
$F(1,138) = 8.01, p < .01 \eta^2 = .06$								
同一視的調整	16.79	2.06	17.36	2.33	17.71	1.89	17.49	2.07
$F(1,138) = 6.32, p < .05 \eta^2 = .04$								
取り入れ的調整	11.80	3.40	12.34	3.60	12.43	4.01	12.39	4.01
外的調整	6.21	2.99	6.91	3.14	7.14	3.07	7.37	3.26
無調整	5.70	2.33	5.99	3.16	5.69	2.75	6.47	3.31

* $p < .05$: result of post hoc test

表1. 動機付け尺度得点

フィットネストレーニング, エアロビクスという個人種目の授業参加者は授業を受講する課程の中で“運動自体が楽しい”, “習得の喜びがある”といった内発的調整の得点, ならびに“運動は良いと思う”, “運動は自分自身を高める”という同一視的調整得点を向上させていたが, これは運動実施の目的についてスポーツを楽しむのみならず自身の健康や体力向上についての意識を高めたということである。

これらの変化は授業場面の環境因子の影響によるものと考えられ, 特に教師が授業環境をどのように展開するかにより変化すると考えられ, 今後の動機づけに直接影響を与える動機づけ雰囲気調査の進展が待たれる。

参考文献

- Gutiérrez, M., Ruiz, L.-M., & López, E. (2010) Perceptions of motivational climate and teachers' strategies to sustain discipline as predictors of intrinsic motivation in physical education. *The Spanish Journal of Psychology*, 13: 597-608.
- 松本裕史・竹中晃二・高家望 (2003) 自己決定理論に基づく運動継続のための動機づけ尺度の開発: 信頼性および妥当性の検討. 日本体育協会編, 日本体育協会スポーツ医・科学研究報, pp. 147-155.
- 永田直也・山内賢・佐々木玲子・加藤大仁・近藤明彦 (2014) 大学教養体育における運動・スポーツに対する動機づけと授業における動機づけ雰囲気の関係. 慶應義塾大学体育研究所紀要54(1), pp17-24
- Papaioannou, A. (1998) Students' perceptions of the physical education class environment for boys and girls and the perceived motivational climate. *Research Quarterly for Exercise and Sport*, 69: 267-275.